

# 1R-04 大学図書館による情報活用能力育成のための CAI とその評価

金沢みどり

(東洋英和女学院大学人間科学部)

## 1. はじめに

生涯学習社会を迎え、大学では社会人入学、生涯学習講座の設置、大学図書館の地域開放などに積極的に取り組むようになってきた。それに伴い、大学図書館では学生や教職員などの従来の利用者に加えて、社会人、地域住民など様々なタイプの利用者が、必要な情報や資料を求めて来館することが予想される。これらの様々なタイプの利用者に対しても、情報活用能力の育成を支援することが、今後の大学図書館の社会的な役割として期待されている。

そこで、本研究では大学図書館における利用者教育の今後のあり方を検討するために、これまで大学図書館利用者を対象として開発されてきた情報活用能力育成のためのCAI(計90件)について、目的、教育内容、評価、今後の教育方針など複数の観点から分析し、その傾向を示す。

## 2. 大学図書館による情報活用能力育成のためのCAIの目的

大学図書館による情報活用能力育成のためのCAIについて、その目的を分析すると、主に以下の5種類に分類される。

### ① 書誌利用指導

OPACやカード目録などの目録の使い

The CAI on Information Literacy by  
Academic Libraries and Its Evaluation

Midori Kanazawa

Toyo Eiwa University, 32 Miho-cho,

Midori-ku, Yokohama-shi, Japan

方、雑誌記事索引や新聞記事索引などの参考図書の利用方法を通じて、情報や資料の効率的な探索方法を教育する。

### ② データベース利用教育

商用オンラインデータベースやCD-ROM版データベースなどの検索手順や検索方法について、教育する。

### ③ 図書館利用説明

ある特定の大学図書館の施設、組織、サービスなどを、説明し紹介する。

### ④ 研究戦略

研究を開始し、研究成果を報告する学術論文を完成するまでの研究過程について、教育する。

### ⑤ インターネット利用教育

インターネット上で必要な情報を探索する際の基礎的な知識や、インターネットの活用方法について教育する。

## 3. 書誌利用指導およびデータベース利用教育の教育内容

CAIの目的による分類により、件数の多かった書誌利用指導およびデータベース利用教育のCAIについて、その教育内容をまとめたものが表1および表2である。

書誌利用指導のCAIの教育内容として「OPACの使い方」が最も多く、次いで「雑誌記事索引の利用法」、「カード目録の使い方」、「逐次刊行物リストの利用法」、「参考図書の利用法」、「抄録誌・索引誌の利用法」の順である。これらは、

大学図書館の利用者として、必要な図書や逐次刊行物が館内に所蔵されているのかを探索できるように、館内の参考図書を利用して調べ物ができるように、また、専門分野の学術雑誌から広く学術情報を入手できるように、配慮された教育内容である。

表1 「書誌利用指導」のCAIの具体的な教育内容

具体的な教育内容		件数 (%)
①	OPACの使い方	24 (55.8)
②	雑誌記事索引の利用法	17 (39.5)
③	カード目録の使い方	9 (20.9)
④	逐次刊行物リストの利用法	7 (16.3)
⑤	参考図書の利用法	6 (14.0)
⑥	抄録誌・索引誌の利用法	4 (9.3)

\*パーセントは、「書誌利用指導」のCAIの合計件数43件を100%として算出した。

一方、データベース利用教育のCAIの教育内容として、「商用オンラインデータベースの教育」が最も多く、次いで「CD-ROM版データベースの教育」、「両者の教育」の順である。

表2 「データベース利用教育」のCAIの教育内容

教育内容		件数 (%)
①	商用オンラインデータベースの教育	16 (47.1)
②	CD-ROM版データベースの教育	13 (38.2)
③	商用オンラインデータベース、及び、CD-ROM版データベースの教育	5 (14.7)
合	計	34 (100.0)

#### 4. CAI 導入以前の教育手段と今後の教育方針

表3は、CAI 導入以前に大学図書館がどのような教育手段を採用していたかを示すものである。CAI 導入以前の教育手段として「講義」が最も多く、次いで「図書館ツアー」、「一対一の個別指導」、「利用案内、パンフレットなどの印刷物」の順である。

表3 CAI導入以前の教育手段

以前の教育手段		件数 (%)
①	講義	34 (53.1)
②	図書館ツアー	14 (21.9)
	一対一の個別指導	14 (21.9)
③	利用案内、パンフレットなどの印刷物	10 (15.6)
④	講習会	6 (9.4)
⑤	ビデオ	4 (6.3)
	実習	4 (6.3)
	ワークブック	4 (6.3)

\*パーセントは、CAI導入以前の教育手段がはっきりしている合計件数64件を100%として算出した。

表4は、大学図書館の今後の教育方針がCAIの開発によりどのように変更されるかを示すものである。「CAIを教育手段のひとつとして今後付け加える」が約8割を占めており、最も多い。

表4 大学図書館による今後の教育方針

今後の教育方針		件数 (%)
①	CAIを教育手段のひとつとして今後付け加える。	65 (83.3)
②	以前の教育手段を今後は全面的にCAIに切り換える。	12 (15.4)
③	これまでは特別な教育を実施してこなかったが、今後はCAIを活用する。	1 (1.3)
合	計	78 (100.0)